裸麦有望系統「キラリモチ」について

１ 来歴

（１）育成地　農研機構　近畿中国四国農業研究センター

（２）交配組み合わせ 「四国裸 103 号」（後の「ユメサキボシ」）と「大系 HL107」（後の「とちのいぶき」）の F1×「四国裸 97 号」

２ 特徴

（１）精麦用として利用が期待されるもち性の二条裸大麦である。

（２）「イチバンボシ」に比べ出穂期は 2 日、成熟期は 1 日程度遅い。

（３）「イチバンボシ」に比べ、稈長は短く、穂長は長く、穂数は多い。

（４）「イチバンボシ」に比べ、千粒重は重く、収量は低い。

（５）水溶性食物繊維「βグルカン」を多く含む。

（６）ポリフェノールの一種である「プロアントシアニジン」を含まず、炊飯麦が褐変しにくい。

（７）平成 29 年度、茨城県が認定品種採用（平成 29 年産の作付面積 40ha）。

表 奨励品種決定調査結果（平成20年播）

品種名	出穂期（月日）	成熟期（月日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/m^2）	千粒重（g）	整粒重（kg/a）
キラリモチ	4/7	5/21	80	6.4	715	35.3	48.9
イチバンボシ	4/5	5/20	85	4.9	624	29.1	55.0

注）整粒重は2.0mm篩選による

「キラリモチ」　「イチバンボシ」

18時間保温後の炊飯麦

（農研機構 HP より）

３ 平成 30 年播(平成 31 年産)の取り組み

奨励品種決定現地調査（初年目）を県内 2 カ所で実施し、現地適応性を検討中。

４ その他

近年、健康志向の高まり等から、高βグルカンもち性大麦の需要が非常に多く、県内では「もっちりぼし」が作付されている。しかし、「もっちりぼし」は生産用種子の入手が困難な状況であり、新たな品種の導入が求められている。「キラリモチ」については、平成 20 年度に試験場内で調査を実施、「イチバンボシ」より低収なため調査を終了した。しかし、「キラリモチ」に対する実需者の評価が高いことや、茨城県で採用され作付拡大がはかられていること、ほかに有望な系統がみられないことから、試験場内において栽培性を再確認するとともに、現地適応性の検討を開始した。